

## 研究主題「自閉症の生徒が、他者の存在を意識して他者からの働きかけを受け止めるとともに働きかけに応じられる力を身に付ける学習についての研究」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
東京都立八王子特別支援学校 教諭 大越 恵仁

### I 研究のねらい

東京都教育委員会は、小学部・中学部を設置するすべての都立知的障害特別支援学校で、平成22年度までに「自閉症の児童・生徒で編成した学級の教育課程」（「自閉症の教育課程」）を編成し、自閉症の障害特性に応じた指導を実施することとしている。

障害のある児童・生徒一人一人の自立と社会参加を目指すためには、学校で生活する間に他者とのコミュニケーションの方法を身に付ける必要がある。本研究の対象である中学部の段階では、小学部で培ってきた「身近な人に簡単なあいさつ」をしたり「集団活動に参加」したりする基礎的な力を基に、「状況に応じたコミュニケーション手段の選択と活用」について指導することが大切である。

しかし、自閉症の生徒は、あいさつの言葉を話したりお辞儀をしたりすることはできても、人とかかわる場面で適切にあいさつを交わすことは難しい。自閉症の生徒があいさつの一連の活動を身に付けるために、本研究において、他者の存在を意識して他者からの働きかけを受け止めるとともに働きかけに応じられる力が身に付く指導法の開発を目指し、本研究主題を設定することとした。

### II 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

文献研究により、自閉症の障害特性として「社会性・対人関係の障害」「コミュニケーション機能の障害」「活動と興味の範囲の著しい偏り」が挙げられる。自閉症の生徒は一般的にその障害特性から視覚的な情報提示が有効であり、動作や操作を伴う課題を得意としている。また、これらの得意なところを把握しながら学習環境の「構造化」を行い、活動の見通しをもたせること、繰り返しによる学習への配慮を行うことも課題の達成へ向けて有効な手だてとなる。

本研究の対象とする自閉症の生徒についても「自分から人とかかわろうとすることが少ない」「周りの人へ自分から積極的にかかわろうとするが、一方的になってしまう」等の実態を考慮し、得意な部分を生かした指導の工夫を開発することが有効と考え、研究を進めることとした。

#### 2 目指す生徒像

自分から人とかかわる力を身に付け、状況への対応の仕方の理解と具体的行動ができる力を培う観点から、目指す生徒像を次のように考えた。

「学習上及び生活上で活動する際に他者の存在を意識して、他者からの働きかけを受け止めるとともに働きかけに応じられる生徒」

#### 3 研究仮説

上記の目指す生徒像を達成するために、次の仮説を立てて検証する。

「自閉症の生徒が、他者の存在を理解した上で気付き、意識する場面が増えることにより、他者を注目する機会が増え、他者からの働きかけを受け止め働きかけに応じることができることにつながるであろう。」

「自閉症の生徒が、他者の存在を意識して他者からの働きかけを受け止めるとともに働きかけに応じられる力を身に付ける学習についての研究」

#### 4 研究の方法



#### 5 実践研究

##### (1) 検証授業の実施

都立特別支援学校の中学部において、自分の役割に応じたあいさつの仕方と、あいさつの一連の動作を他の生徒とのやり取りを通して学習することにより、他者の存在を意識して、他者からの働きかけを受け止めるとともに働きかけに応じられる力の向上を目標とする指導の有効性を検証した。今回の研究では、太田 Stage の段階が、StageⅣ（基本的な関係の概念が形成された段階）が 1 名、StageⅢ－2（概念形成の芽生えの段階）が 2 名、StageⅢ－1（シンボル機能がはっきりと認められる段階）が 1 名の自閉症の生徒 4 名を対象とした。

##### (2) 研究仮説に関連する生徒の様子

検証授業の実施にあたり、対象生徒一人一人の状況に応じた動作や言葉の理解の様子について、個別指導計画や「認知の課題整理表」（「自閉症の教育課程の充実」の資料 平成 20 年東京都教育委員会）を参考とし、次のように整理した。

表 1 研究仮説に関連する生徒の様子

生徒 A	生徒 B	生徒 C	生徒 D
【他者の存在に気付き、意識する場面】 ・具体的な行動を取るためには、教師が状況に応じた指さしなどの視覚情報と言葉かけを合わせて繰り返すことで身に付けることができる。	【他者の存在に気付き、意識する場面】 ・ワークシートの項目を参考にして、身近な人の学習活動を見てその様子を述べるができる。	【他者の存在に気付き、意識する場面】 ・教師から個別に言葉による働きかけを受けると、短時間は全体に注意を向けることができる。	【他者の存在に気付き、意識する場面】 ・言語理解が高く、教師の言葉による働きかけを理解している様子が見られるが行動面に現れる場合が少なく、繰り返しの働きかけが必要となる。
【他者からの働きかけを受け止め働きかけに応ずる場面】 ・一つの行動を終えて次の行動へ移るために教師が言葉により指示をすると受け止め、応じることができる。	【他者からの働きかけを受け止め働きかけに応ずる場面】 ・身近な人が状況場面と異なる対応をした場合、間違いを教えることができる。	【他者からの働きかけを受け止め働きかけに応ずる場面】 ・係活動などでは教師からの言葉による指示に従い、別の教室から指示された品物を持つてくることができる。	【他者からの働きかけを受け止め働きかけに応ずる場面】 ・興味や関心のあるものには、教師からの指さしなどの視覚情報と言葉かけにより応じることができる。

##### (3) 自閉症の障害特性に配慮した指導の工夫

目指す生徒像にある「他者の存在を意識する」及び「他者からの働きかけを受け止めて、働きかけに応ずる」のそれぞれの力を身に付けさせるために、生徒の実態を考慮した指導の工夫を行った。指導の工夫として、生徒 A については活動で使用する文字カードの提示や教師の言葉かけの内容や方法、生徒 B については活動の注意すべきところを示したワークシートの活用、生徒 C については写真カードや活動の見本となるビデオの提示、生徒 D については繰り返しの学習と文字カードの提示を基に検証授業を実施した。4 名に共通した指導の工夫としては、実演を行う学習を取り入れた。

授業の一部に、生徒が 2 人で協力しながら順番どおりに活動を行う簡単なゲームを 2 つ用意した。ゲームの有効性については、上野一彦、岡田智の両氏によると、「模擬場面だけでの練習ではスキル定着と般化が難しい。ゲームの中で練習したり、ワークシートを用いて練習したりと多層的にリハーサルを行うことが効果的である。」と述べている。

本研究においても、「他者の存在を意識する場面」及び「他者からの働きかけを受け止めて、働きかけに応ずる場面」において、生徒一人一人の実態に応じてより主体的に学習活動を設定することが可能であると考え、「身近な人とあいさつをする」「身近な人にもものを届ける」「身近

「自閉症の生徒が、他者の存在を意識して他者からの働きかけを受け止めるとともに働きかけに応じられる力を身に付ける学習についての研究」

な人と共に行動する」等の学習を、ゲームを通じて学ぶことができるように設定した。

授業の構成については、前半に生徒の実態に応じて教師が適切なあいさつの仕方を繰り返し例示・指導し、後半のゲームの場面では日常生活で見られる人と出会った際にあいさつをする活動を生徒同士で行うように場面を設定した。

自閉症の障害特性から、次の5点を指導の工夫点とした。

表2 自閉症の障害特性に配慮した指導の工夫点

工夫	具体的内容
1 提示方法の工夫	①写真カードや文字カードの視覚教材を提示する。
2 授業の見通しをもたせる工夫	②本時の学習内容を授業の開始時に文字カードで確認する。 ③同じ展開で進む、繰り返しの学習を行う。
3 活動のイメージをもたせる工夫	④活動内容を写真カードで、時系列に提示する。 ⑤活動の見本となるビデオを提示する。
4 学習に意欲的に取り組ませる工夫	⑥身体を動かす学習内容を取り入れる。 ⑦活動の注意すべきところを示したワークシートに「○」を付けさせ、得点を競わせることで他の生徒の活動に注目させる。 ⑧活動をした生徒自身が自分の様子や動作を即時に評価、確認できるように、生徒の活動を撮影したビデオを提示する。
5 活動への自信を深めさせる工夫	⑨生徒に、自分の行動が改善していることが分かるように結果を示し、活動への自信を付けさせる。 ⑩生徒に改善できた活動を再演させ、賞賛することにより自信を深めさせる。

#### (4) 指導計画

指導の有効性について次の内容で検証授業を実施した。

表3 検証授業の内容

1	単元名：「友達に注目して、あいさつをしよう」（社会性の学習）	6時間扱い
2	対象：都立特別支援学校中学部第1学年（普通学級）	4名
3	単元の指導目標： ○自閉症の生徒が学校生活で、他の生徒に注意を向け、自分の役割や場面に応じたあいさつができる。 ○自閉症の生徒が、生徒同士であいさつができる。	
4	学習内容と検証の視点 【主な学習内容】 1 文字カードと写真カード、活動の見本となるビデオの視覚教材の提示により本時の活動について見通しをもつ。 2 授業の前半では教師を相手に、適切なあいさつの仕方を繰り返し学習する。 3 歩いていて教師や他の生徒と出会う場面を設定し、「こんにちは」とあいさつをする。 (=「こんにちはゲーム」) 4 品物を取りに行き、教師や他の生徒に品物を渡すときに「どうぞ」、教師や他の生徒から品物を受け取るときに「ありがとう」と言う。(=「持ち物ゲーム」) 5 評価カード(ワークシート)、活動の様子を録画したビデオを活用して自身のあいさつの一連の活動を振り返る。 6 授業のまとめでは本時の活動を振り返り、他の生徒の前で再度行う。 【検証の視点】 1 他者の存在を意識した行動が見られるか。 2 他者からの働きかけを受け止めて、応じている行動が見られるか。	

「こんにちはゲーム」 得点表  
氏名

	注意するところ		Aさん	Bさん
1	〇さんとの距離	教師が演じる写真	○	
2	〇さんに向く足をそろえる	(写真)	○	
3	まっすぐになる	(写真)		
4	「こんにちは」と言う	こんにちは	○	
5	頭を下げる	(写真)		

「持ち物ゲーム」 得点表(渡す人)  
氏名

	注意するところ		Aさん
1	同じチームの〇さんに品物を渡す	教師が演じる写真	
2	〇さんに両手で品物を渡す	(写真)	
3	「どうぞ」と言う	どうぞ	
4	〇さんに向けて品物を渡す足をそろえる	(写真)	

「持ち物ゲーム」 得点表(受け取る人)  
氏名

	注意するところ		Aさん
1	同じチームの〇さんから品物を受け取る	教師が演じる写真	
2	〇さんから両手で品物を受け取る	(写真)	
3	「ありがとう」と言う	ありがとう	
4	〇さんに向けて品物を受け取る足をそろえる	(写真)	

図1 「こんにちはゲーム」ワークシート

達成できた項目に「○」を付ける。

図2 「持ち物ゲーム」ワークシート①

すべての項目に「○」が付けられることを目指す。

図3 「持ち物ゲーム」ワークシート②

「自閉症の生徒が、他者の存在を意識して他者からの働きかけを受け止めるとともに働きかけに応じられる力を身に付ける学習についての研究」

### Ⅲ 研究の結果と考察

#### 1 研究の結果

ゲームがもつ特性を活用し、文字カードやビデオ映像などの教材・教具を生徒に応じて組み合わせさせた。自分の行動や役割を場面ごとに意識できる指導の工夫を行うことで、「他者の存在を意識する力」及び「他者からの働きかけを受け止めて、働きかけに応ずる力」が高まり、対象生徒全員の行動の変容が見られた。

表4 自閉症の障害特性に配慮した指導の工夫における生徒の変容

身に付いた力	生徒	指導の工夫を取り入れる前の様子	指導の工夫(表2)の○数字と対応)	指導の工夫を取り入れた後の様子
「こんにちはゲーム」 ○他者の存在を意識する ◇他者からの働きかけを受け止めて、働きかけに応ずる	生徒A	・教師と会うと頭を下げる模倣をする。	①文字カードの提示 ③繰り返しによる学習	○生徒との活動で、自分から先に「こんにちは」とあいさつができた。
	生徒B	・教師の「こんにちは」に「こんにちは」と返すことができるが、不必要に動いて相手を見ない。	⑦評価カードのワークシートの導入(図1) ⑧生徒の活動の様子を撮影したビデオの提示により、即時に振り返りの学習を行う	○自身の活動の様子をビデオで振り返り、不必要に動かないことを意識して改善が図れた。 ○ビデオで振り返り、良かった点と課題となる点を話し、課題を共有することができた。
	生徒C	・教師の「こんにちは」に、「こんにちは」と返すことができる。	①活動内容を示した、写真カード及び文字カードの提示	◇生徒との活動では、自分から先に「こんにちは」とあいさつができる。生徒からのあいさつに対しても、返答できる。
	生徒D	・教師との活動で「こんにちは」と言うことができる。教師との距離が遠く顔を両手で覆う。	①文字カードの提示 ③繰り返しによる学習	○生徒との活動で、あいさつをするとき適当な距離で行うことができた。 ○あいさつするとき、両手で顔を覆うことなくできた。
「持ち物ゲーム」 ○他者の存在を意識する ◇他者からの働きかけを受け止めて、働きかけに応ずる	生徒A	・教師が品物を渡す際の「どうぞ」の働きかけに、受け取る側であってもそのまま「どうぞ」と返す。	①文字カードの提示 ③繰り返しによる学習 ⑩良い行動を再演させ、賞賛を与える	◇生徒から「どうぞ」と品物を渡されたとき、教師の「何と言うの?」「もらうから?」の言葉かけや文字カードの提示により、「ありがとう」と答えることができた。
	生徒B	・生徒の活動の様子について発言することは無かった。	⑦評価カードのワークシートの導入(図2・図3)	◇生徒との活動のとき、「ありがとう」と言って品物を渡してきた生徒に間違いを指摘することができた。
	生徒C	・生徒との活動では、表情を変えることは無かった。	④活動内容を表した写真カードを時系列に提示	○生徒との活動では笑顔で品物を持っていくが、自分の「どうぞ」の発言の前に、相手に「ありがとう」と言われ、少し戸惑った様子になる。
	生徒D	・渡す活動のとき、「どうぞ」を何回も繰り返して言う。 ・渡す活動のとき、もらう側の教師の発言である「ください」「ありがとう」を繰り返して言う。	①文字カードの提示 ③繰り返しによる学習 ⑩良い行動を再演させ、賞賛を与える	◇渡す活動のとき、教師の「ください」の発言にそのまま「ください」と言って渡そうとしたが、教師の「どうぞ」の発言とホワイトボードを見るように指さして促したことにより、ホワイトボードを確認して「どうぞ」と言い直して渡すことができた。

#### 2 考察

対象生徒は、教師との個別のかかわりや、教師の支援を受けて他の生徒とかかわることではできるが、独力で他の生徒とかかわることには課題があった。自分が他の生徒とかかわっている様子を即時にビデオで視聴し、一つ一つの動作や発言に注目させることを通じて自分と他者の存在を意識し、自他の課題を把握できるようになった。また、あいさつの一連の活動を遂行するには相手の働きかけを待ったり受け入れたりする必要があると、自他のかかわりを意識できることにつながった。さらに、本研究で実施したゲームには、評価の観点を決めて他者と得点を競い合うルールを入れることで、現実の場面よりも緊張を感じないで積極的に行動を調整しようとする様子が見られた。このような、ゲームと生徒に応じた指導の工夫を複合的に組み合わせることにより、他者の存在を意識して他者からの働きかけを受け止めるとともに働きかけに応じられる力を身に付けることが促されたと考える。

### Ⅳ 今後の課題

生徒が授業で学習した内容を、他の状況や場面においても確実に実行できるように、般化を促す指導法について研究を進める。